

## 2012年度(2012年4月1日~2013年3月31日)

### 特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 事業報告

#### ■2012年度を振り返って

2012年度は第3期中期計画(2010~2012)の最終年度でした。「中間支援機能の強化」、「遊友ひろばの維持・充実」、「活動を持続するための対策・準備」という中期計画の3つの事業計画に則り、事業を実施してきました。

そして2013年から2015年度の第4期中期計画策定の年でもありました。設立から12年が経過し、原田基金は底をついてきており、ぐらす・かわさきを持続させていくための思い切った対策が必要になりました。会員のみなさんの意見交換会を開催し、今後の事業展開の方向性を検討してきました。特に「遊友ひろば」の事業については、開設時に比べれば市の子育て支援の場が増えていることや、健康麻雀も町内会館などでも行われるようになり、地域の皆さんの自主的な活動を応援することがミッションであるぐらす・かわさきが行うべき事業かどうか、検討を重ねてきました。またそこに関わるボランティアさんの発掘や交流促進にも努め、家賃の値下げ交渉も行いました。しかし、大幅な値下げは望めませんでした。ひろば事業の継続に関しては、2013年度の大きな課題になります。

また、8月31日に全国初のNPO法人の仮認定を取得し(同日に大阪でも1件取得あり)、個人や企業がぐらす・かわさきに寄付をした場合には特定寄付金に該当することになりました。個人の場合は税制上の優遇措置として税額控除(所得控除との選択制)が受けられるようになりました。寄付者は確定申告によって、寄付額の半額程度(所得税の25%以内)が戻ってくることになり、寄付がしやすい環境になりました。神奈川県新しい公共支援事業として、試行した「かわさき・サポート基金」もその仕組みを活かした中間支援の活動の一つです。試行として一定程度の成果はあり、今後その成果を踏まえ、新たな組織づくりに取り組んでいくことになります。

4月にオープンした「メサ・グランデ」事業については、地域コミュニティの場として、またコミュニティビジネス振興のための支援事業の場として、事業を徐々に確立してきています。食と野菜というツールがあることで、だれでも気軽に来ることができる地域コミュニティの場となり、コミュニティビジネスの講座や相談会の開催、ワンデイシェフや貸しキッチンという起業家支援の場として、利用者を増やしてきました。今後、さらに特色を強化し、事業性の確保に臨んでいく必要があります。

ぐらす・かわさきの活動が拡大してきている中、基礎になっている会員や利用者に活動をわかりやすく伝えること、広報活動の重要性は分かっていますが、事業の継続性や方向性が明確にならないとホームページをはじめとして現在の広報ツールの改訂は難しく、今年もあまり大きな改善はできませんでした。地域の中に新たな理解者・共感者を増やし、設立主旨に賛同してくれる新規会員を増やすためにも、広報の強化は今後の課題として先送りになりました。

スタッフ体制については、「メサ・グランデ」「かわさき・サポート基金」「地域子育て支援センター」という新規の事業が重なり、スタッフ各自が担当事業について試行錯誤の中、意欲と自主性に頼らざるを得ない環境の中、能力を向上させてきましたが、法人の経営状態を鑑みると、待遇面は現状よりもさらに下げないと厳しいことが明白となっています。また、事業ごとに以前から担当理事を置いていましたが、理事と担当スタッフの連携が不十分だったこともあり、理事や理事会の役割の明確化が課題とし

て残りました。

## 2012年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2011年度末	154名	8団体	10名	172名
2012年度末	155名	9団体	15名	179名

※会員は個人会員の入会が13名、脱退が9名、団体会員の入会が1名、賛助会員の入会が2名、正会員個人の内、賛助会員に移動した人が3名。

## ■2012年度事業内容

### (1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(1))

#### ①かわさきサポート基金試行事業

(担当理事：池上・江田、スタッフ：江田・広岡)

2011年度下半期に引き続き、2012年度も神奈川県新しい公共支援事業を受託し、市民ファンド「かわさきサポート基金」の1年半の試行事業を終了しました。2012年度は、公募・選考を経て、「持続応援型寄付」3団体、「プロジェクト型寄付」3団体を決定し、寄付募集・助成に至るまでのプロセスを試行しました。イベントや募金箱設置を通じて寄付を募集し、地域社会への参加ツールの一つとして寄付をアピールしました。また、市民活動交流会や、学習会を主催し、寄付を促進する取り組みを行いました。

最終的に目標金額5,806,000円に対して、寄付総額は3,174,986円、寄付者名の分かっている人が約250名、募金箱に入れた人や寄付付き商品を購入した人などを含めると少なくとも延べ500名以上の人が寄付してくれました。

- ・市民活動発表会&寄付投票交流会 (4月15日 17団体参加、寄付額10,300円 (21口))
- ・持続応援型寄付・プロジェクト型寄付 団体及びプロジェクトの公募 (6/1~7/2)
- ・公開選考会 (9月1日、応募11団体)
- ・寄付集めの現状に関する連続勉強会 (9月29日、10月3日 計20人参加)
- ・日本理化学工業会長の講演を主とした寄付集めイベント (10月28日開催、45人参加、寄付額66,500円 (133口))
- ・「メサ・グランデ」「ムーンライト (地ビール屋)」で寄付付き商品販売 (寄付金9900円)
- ・チャリティ・シャンソンショー開催 (12月21日、15名参加、寄付金11,000円)
- ・インターネットサイト (GiveOne) での寄付キャンペーンへの参加 (11月27日~12月26日、目標金額2,000,000円、実績17,000円 (6口)。参加23団体中21)
- ・寄付つき商品 (チョコレート) 販売 (1月末~2月上旬、売上46,600円 (90個)、うち寄付金11,420円)
- ・HPでの情報公開や助成先紹介リーフレットの作成、ニュースなど発行
- ・寄付金控除等寄付税制に係る勉強会 (2月2日 12人参加)

#### 【成果】

・寄付集めを通じて、寄付の対象となった市民活動団体にとって、情報公開や広報活動が非常に大事なことになることの理解が広まった。

- ・市民活動に参加するひとつのツールとして、寄付があることをアピールできた。
- ・学習会参加者に市民ファンドの設立意義についての理解を深めることができた。
- ・寄付の対象となった団体の活動を知らない人たちに、その活動について知ってもらう事ができ、また寄付をしたい人たちにとっても、地域の活動を知ってもらう事ができた。
- ・寄付団体同士の交流が深まった。

#### 【課題】

- ・リーフレットやイベント・学習会などを通じて、かわさきサポート基金の内容や各団体の取り組み、寄付税制についてなどを紹介し、説明を行ったが、十分にはできていなかった。
- ・寄付金額が目標を大きく下回ったことから、さらなる広報活動やツール（寄付つき商品など）、より効果的なアクションを工夫していく必要がある。
- ・持続応援型寄付の趣旨として「寄付集めに時間を割けない団体の代わりに当基金が寄付を集める」ということを想定していたが、結果的には寄付対象団体も一緒に寄付集めのための取り組みを行っていくことが必要であることが分かった。
- ・持続応援型寄付の趣旨として、賛助会員や協賛企業の新規獲得があるが、そこまでのフォローができなかった。
- ・集めた寄付で実施する予定だった事業が延期になった案件もあることから、対象団体との連携や今後のフォローが必要である。
- ・今後の市民ファンドの立ち上げの目途が立っていないため、企業との信頼関係づくりや連携が難しかった。
- ・市民ファンド設立・運営に関する一連のプロセスと結果をホームページなどで迅速に公開できなかった。
- ・助成先団体の情報公開や具体的な寄付効果を可視化できなかった。

## ②高津区「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

（担当理事：田代、スタッフ：田代・野仲・（江田）、アルバイト：吉田）

2009年から続いている高津区からの委託事業、「たちばな農のあるまちづくり推進事業」を今年も行いました。推進会議の運営、および推進会議で決定した事業を、委員の方々と共に実施しました。この事業は都市農業の課題を探り、その解決を地域の様々な活動団体や農家さん、市民の方と一緒に、事業を通じて図りたいくというものです。定例となってきたファーマーズマーケット「高津さんの市」を今年も4回開催し、徐々に地域の農産物が地域で買える場として、定着してきた感があります。最後の回は高津区役所ロビーで「たちばな農のあるまちづくり推進フォーラム」として、農家さんの話を聞いたり活動の報告をするお祭りの形で開催しました。

また、2つの部会事業を実施しました。一つは種まきから収穫まで、一連の農事を4回にわたって体験する「育てて食べよう！マイベジタブル～」のシリーズ。高津市民館やプラザ橘の調理室も使って、食育の視点も絡めて実施しました。

「育てて食べよう！マイベジタブル～」

（参加者数 第1回：3名、第2回：7名、第3回：親子10組、第4回：7名）

また、もう一つの部会では、「農と文化をめぐる」をテーマに、2回のたちばな地区をめぐるツアー

一と写真展を開催しました。・・・(参加者数など)

「たちばな地区風景写真撮影ツアー」参加者 11 名

「久末地区農産物品評会お買いものツアー」参加者 20 名

「たちばな地区風景写真展」1 月 7 日～11 日、高津区役所ホールにて開催

#### 【成果】

- ・ 今年度新規の企画を実施し、新しい層へのアプローチができた。
- ・ 「さんの市」が地域に浸透してきた。

#### 【課題】

- ・ 推進委員間のコミュニケーションが少なく、モチベーションが低い。
- ・ 委員間の意識の共有、組織づくり、体制の強化。

### ③かわさき自治推進・ソーシャルビジネスフォーラム

(担当理事：江田、スタッフ：田代・塩沢・江田)

2012 年度に川崎市の協働型委託事業として「かわさき自治推進フォーラム」の委託を受けました。そして数年前から受託しているコミュニティビジネス振興事業の中のフォーラムと合同で「かわさき自治推進・ソーシャルビジネスフォーラム」を 10 月 26 日に行いました。

全国に先駆けて制定された川崎市自治基本条例を広く市民に広めるためのイベントを川崎市はこれまで行ってきましたが、今回初めて NPO への協働型委託事業として行うことになったものです。

川崎市内では、多様な自治の担い手が地域課題の解決に向けた活動や社会貢献活動などを行っています。このフォーラムの目的は、その活動の持続性や安定性についての課題を共有し、持続可能な活動の仕組みづくりに向けたヒントを探ること。

「人をつなぐ 明日あしたへつなぐ～つかもう！地域の取り組みを継続させるためのコツ」というタイトルで川崎市高津市民館大ホールほかで開催しました。

基調講演は尾木直樹 氏（教育評論家）「尾木ママ流 - 子育て・地域づくり」。アプローチ講話「地域の『あったらいいね』をソーシャルビジネスに」講師 川名和美 氏（高千穂大学教授）、分科会 1 「地域の主役“人”を育て、明日へつなぐ」、2 「市民が市民を支える - 寄付文化を考える」、3 「地域の身近なソーシャルビジネス、コミュニティカフェを知る」。

参加者は450名、アンケートの結果も概ね好評でした。事業の成果としては評価できる内容でしたが、全体の事業の委託方法（基調講演の委託事業者と分科会の委託業者が違う）には納得できず、振り返りの中で、今後は基調講演も含め一体のイベントの委託をすべきである、という提案をしました。

#### 【成果】

- ・ 市民自治についての啓発はある程度は達成できた。
- ・ 協働の一つのプロセスを体験することができた。

#### 【課題】

- ・ 川崎市との協働の役割分担があまり明確でなかった。
- ・ 1 つのフォーラムを 2 社の委託事業に分ける設定は企画運営上、統一がとれず難しかった。振り返りで 1 つのトータルなフォーラムとして扱うよう来年度への提案を行った。

## (2) コミュニティビジネスを支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(2))

### ①かわさき・みんなのキッチン推進事業

(担当理事：田代、スタッフ：佐藤・田代・野仲、アルバイト：相澤・佐久間)

コミュニティビジネス創出サポートのモデル事業として、かわさき・みんなのキッチン推進協議会が実施した「神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業」から委託を受け、「メサ・グラデ」にて、ワンデイシェフ、貸しキッチン、コミュニティビジネス起業講座等を実施し、起業支援と地域交流の促進を図りました。

基本的には月・火・木・土曜日の10～14時に「貸しキッチン&スペース」事業を行い、水・日曜日にはこれから飲食で起業したい人がチャレンジできる「ワンデイシェフ」事業を行い、不定期で講座の開催を行ってきました。利用状況は以下の通りです。

- ・「貸しキッチン&スペース」利用回数：延べ110回、登録者：45名
- ・「ワンデイシェフ」利用回数：延べ70回、登録シェフ：22名
- ・講座等 16回開催
- ・「コミュニティビジネス講座」(6回)・コミュニティビジネス事業者の見学会(2回)・写真撮影講座「ブツ撮りのコツ」・コミュニティビジネス講座修了生交流会&学習会「リトライ!～うつ病休職者の復職支援の実際～」・「カフェ起業のためのドリンク講座」(2回)・「HP作成講座」(2回)・「ワンデイシェフによる、おいしいトークキッチン」・「わたしのお店のつくりかた」

ワンデイシェフは、飲食店起業希望者としては、KSソーシャルビジネスアカデミー受講生や昨年度のiSB公共未来塾川崎サテライト受講生、その他パルシステム神奈川のコミュニティカフェ起業講座受講生の利用などがありました。また、特に下半期はネット検索で見られる方が多くいました。また、飲食と絡めたイベントの開催が目的の方は、ぐらす・かわさき会員も多くあり、会員の自己実現の機会の創出にもつながったようです。日曜ランチ・夜が人気で、水曜の利用は少ないため、来年度は土日に移行予定です。

貸しキッチン&スペースは料理教室やクラフト講座としての定期的な利用があったほか、ワンデイシェフのリハーサルや、キッチンスタジオとしての写真撮影のための利用のほか、地域の方のパーティ会場としての利用も多くあり、コミュニティの促進にある程度の効果があったと思われます。料理教室は平日の午前の開催が多かったですが、ランチ営業と重なる場合が課題でした。

CB講座やコミュニティカフェ起業家との交流、ドリンクなどはニーズが高かったです。実践的な内容やネットワークを作れる機会が求められています。

かわさき・みんなのキッチン推進協議会は来年度は解散し、事業をぐらす・かわさきに引き継ぐ予定です。

#### 【成果】

- ・ 県のモデル事業として実店舗を開設できた。
- ・ 会議体などの連携体制を構築でき、今後も関係性を持続できる仕組みができた。

#### 【課題】

- ・ 収益体制の構築
- ・ 起業支援のノウハウの構築

### ② 川崎市コミュニティビジネス振興事業 (担当理事：竹林、スタッフ：田代・塩沢)

川崎市の委託を受け、昨年度に引き続きコミュニティビジネス相談窓口を開設するとともに、か

わさきコミュニティビジネスメールマガジンの配信を行い、「川崎市コミュニティビジネス支援セミナー」を開催しました。また自治推進フォーラムと連携し、「かわさき自治推進・ソーシャルビジネスフォーラム」を開催しました。

相談窓口は、新規の相談者が少なく、継続相談が多かったことは特徴的でした。長いフォローが必要だということがわかりましたが、新規相談の掘り起しの更なる努力が必要であると考えられます。特に現代のネット社会においては、WEBでの検索で相談窓口にたどり着くことが非常に重要であり、今年は後半にホームページを工夫しましたが、まだ改善の余地があります。

かわさきコミュニティビジネスメールマガジンも定期的に配信しました（全12回）が、配信件数があまり上がらず、情報提供の効果を上げるためには、配信件数を増やす取り組みが今後も必要と感じました。

コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスという言葉の認知度が高くなり、関心を寄せる市民が増えてきたことから、啓発というよりも、どうやったら具体的に始められるか、効果的な取り組みができるか、テーマごとに3回のコミュニティビジネス支援セミナーを行い、参加者は具体的な学びを得ることができました。

「地域で暮らし続けるための方策をコミュニティビジネスの事例から探る」 参加者：18名

「驚くほど人が集まる！チラシの作り方」 参加者：46名

「コミュニティカフェの作り方、続け方」 参加者：28名

また市民活動や市民自治の取り組みに関心のある層に、コミュニティビジネスという社会課題解決のアプローチを知ってもらうために、かわさき自治推進・ソーシャルビジネスフォーラムは、非常に多くの参加者があり、効果的でした。

#### 【成果】

- ・ コミュニティビジネスの起業に関心を持つ市民が多くなり、フォローアップにより、「スペインバル」や「障害者就労移行事業所」など、実際の起業に結び付く人も現れるようになってきた。

#### 【課題】

- ・ 啓発的な企画や成功モデルの発信がさらに必要
- ・ メルマガやHPでの情報提供力
- ・ 効果的なフォロー、専門家とのさらなるネットワーク、支援策の情報収集と活用

### ③空き家等活用推進事業（たま・みた・まちもりプロジェクト）

（担当理事：薬袋、スタッフ：江田・塩沢）

2012年1月に行われた川崎市コミュニティビジネス交流会（川崎市主催、ぐらすかわさきが企画運営）で、明治大学建築学科教授の園田真理子先生が「高齢になっても住み慣れたまちで暮らし続けるため、どのような仕組みが必要か」お話ししていただいたことがきっかけで、園田先生や交流会参加者などと西三田団地や寺尾台団地でそうした仕組みを作りたいと4月より話し合いを進めてきました。

11月に、川崎市住宅政策の推進に関するモデル調査（多摩区三田地域）協議会（川崎市、明治大学まちづくり研究所、ぐらす・かわさきなど）で、国土交通省の補助金（空き家等活用推進事業）を受けることができ、ぐらす・かわさきが活動主体として、住み慣れたまちで最期まで暮らし続けられる仕組みづくりの活動を行いました。

12月から2月にかけて、西三田団地(1108世帯)と寺尾台団地(412世帯)の空き家率調査、三田地区での65歳以上の方20人のヒアリング調査、地域の人に呼び掛け3回の交流勉強会、広報のためのチラシ作成(2000部戸別配布)、ホームページ作成等を行いました。また高齢者の住み替え支援として、片づけワーク・お掃除ワーク、住み替え相談、空き家相談の試行も行いました。さらに明治大学まちづくり研究所が多摩区三田1丁目に賃借した「みた・まちもりカフェ」内に事務所を借り、次年度以後継続して活動するための土台作りができました。

#### 【成果】

- ・ 住み続けるための必要なサポートのメニューが明らかになった。
- ・ 地域に密着した「暮らしや住まいのサポート」の団体(三田サポートわなり)を立ち上げることができた。
- ・ 地域の介護事業者「コスモスの家」などとのつながりができた。

#### 【課題】

- ・ サポート事業の継続のための財政的基盤整備
- ・ 異なるセクターとの連携の難しさ

### (3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施(定款第5条(3))

#### ① 川崎市地域子育て支援センター事業の受託

(担当スタッフ:大西・小林、アルバイト:相澤・下田・鈴木)

市内のこども文化センター内で、週3日、午前中開催されている、未就園児とその保護者向けのサロン事業(地域子育て支援センター【児童館型】)を2館において実施しました(区からの委託事業)。

子育て支援センターますがた・おおとを利用する方々が、安心して本音を話せる場として、子育ての仲間をつくっていける場として地域の子育ての拠点として機能し始めた1年でした。

まず、母たちが楽しいと思える子育てが実現できるよう、子育てのなかで気になることや欲しい情報が自由に話され交換され、のびやかに交流できるよう様々な試みをしてきました。特に親暦1年の父母にとって、赤ちゃんとの日々は何もかもがどの方法が正しいのか悩みはつきないもの…先輩ママのちょっとした体験談にほっとしたり励まされたり、そしてまた一緒に思いをかなえることで、楽しみを倍のものにしてきた1年間でした。春のバラ園へは親子一組で行ったという話しを聞いた何人かの母たち、秋のバラ園へはベビーカーや抱っこでみんなでお弁当をもって行きました。

「ますがた」では、秋には2歳児の自主サークル「GEN☆KIDS」(ますがたを中心に週1の活動)を立ち上げました。もっと身体を使って遊びたい、同じくらいの子の仲間のなかでいろんなことして遊びたいという、子どもと親の願いを受けて出発しました。

また、〈出会いとその出会いを確かなものにしていく試み〉として、日常活動としてのわらべうた・手遊び・絵本の読み聞かせ等から自己紹介をかねたグループワーク、その他…小麦粉粘土で遊ぶ、草花遊び、落ち葉でアート、親子体操他を行いました。

運営上では多くの課題を抱えていますが、子どもたちが元気に育つよう親たちも子育てのつながりを深め、地域が豊かになっていくよう、次年度も継続していきます。

#### 【成果】

- ・ 地域のお母さん、お父さんたちと関係が1年間の間で構築されてきた。
- ・ ますがたでは、自主サークルが立ち上がった。

## 【課題】

- ・当初提案した内容と、実際に委託事業として行える内容が異なり、進め方に困難があった。

## ② 多摩区・中原区子育て支援会議、多摩区・中原区子ども総合支援連携会議等への参加

(担当スタッフ：大西)

多摩区内の子育て支援グループが協力して行う「たまたま子育てまつり」は、2012年で10回目。例年通り盛況でした。ぐらす・かわさきは視聴覚室を借り、「ママとパパのための骨盤ケアエクササイズ」を開催しました。当日は、多くの人に気軽に体験してもらおうということで、午前午後合わせて3回各30分と短めで行いました。お母さんとお父さんでストレッチをし合ったりと、久々に体をほぐせた方もいて、気持ちよさそうでした。

その他、例年通り「たまたま子育てネットワーク」に参加し、多摩区役所の生涯学習支援課が事務局を担っている「多摩区子育て支援会議」や、多摩区役所のこども支援室が事務局の「多摩区こども総合支援連携会議」にも参加しました。

中原区では、子育てネットワーク会議に参加し、11月に行われた「こども未来フェスタ」に「地域子育て支援センターおおと」して協力するなどしました。

## (4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(4))

### ① 遊友ひろば事業

(担当理事：池島、スタッフ：江田・大西・塩沢・広岡)

#### ■遊友ひろばを活用した市民活動支援の実施

市民活動の活性化を目的に、遊友ひろばの貸し出しを行いました。23の団体や個人による、延べ506時間の利用がありました(2011年度は21団体・個人による延べ267回/534時間の利用)。賃料は1時間1200円、ぐらす・かわさき会員は1100円(地域通貨たまは100たま使用可)。2012年度から料金が値上げになりましたが、新規の利用や定期利用の方も引き続きありました。

書類入れ引き出しやレターボックスの貸し出しは2団体の利用がありました。賃料は、引き出しが300円/月、レターボックス(手紙とFAX受付)が100円/月(ただしFAX受信は1枚10円の実費)。

また、地域の市民活動情報を中心に、ひろばの壁面を活用した情報掲示板や物販コーナーの運営を行いました。

#### ■健康麻雀

- ・健康麻雀サロン/毎週金曜日 10時～15時 会費：1,500円(会員1,000円、500たま使用可)  
開催日数：47日 参加者数：744名(うちボランティア47名)、1回平均約16名  
(昨年は47日、752名)
- ・初級者麻雀サロン/毎週火曜日 13時～16時 会費：1,200円(会員1,000円、500たま使用可)  
開催日数：49日 参加者数：882名(うちボランティア99名)、1回平均約18名  
(昨年は47日、732名)

健康麻雀サロンは、昨年と同様に新春麻雀大会の開催、年間通しのトップ賞、毎月月間賞などの表彰をし、参加者に楽しんでもらう事ができました。

初心者サロンの運営は、継続して会員の方に委託しました。参加者への気配りがなされ、新しい参加者の方が昨年度よりもさらに増えました。また、ボランティアの方も定期的に参加してくださ



り、とてもよい雰囲気運営することができました。

## ■親子ひろば

親子ひろばを卒業したお母さんたちや学生さんたちによる、自主的な運営による親子ひろばにしていくということでしたが、なかなか自主性を出すところまでは至りませんでした。

助成金による資金確保はできませんでした。2011年度は月・木の週2回の開催でしたが、新しい川崎市地域子育て支援センターが増えたことや地域のニーズの変化から、今年度は木曜日のみ、週1回、時間を10時半から15時まで延長しての開催としました。

携帯のメールマガジンの配信を継続。月1回親子ひろばの予定を配信し、不定期で地域の情報などを配信しています。メールマガジン登録者は、100人を超えました。

- ・参加組数：木曜日 50回開催、275組（親子で1組） 1回平均約5組（去年は4組）

参加費：1組200円（100円まで使用可）

- ・プログラム：前年度に引き続き、地域の方を講師とする講座を開催することができました。

前年度から継続し定期的で開催しているもの：「わらべうた」「うたとお話の会」「なのはな保育園園庭で外遊び」、継続して不定期で開催しているもの：「『ち・お』を読む会」「ベビーマッサージ」「手芸小物などの制作・お菓子作りの講座」、新規に定期的開催：「季節の折り紙」、新規に不定期に開催：「骨盤ケアエクササイズ」「温熱療法」「おこづかい教室」など。

夏季は、なのはな保育園の協力を得て、保育園の乳児用プールを借り、中・高生のボランティアを受け入れ、プール遊びをしました。

- ・保育：保育が必要な講座は、多摩保育グループの協力を得て運営しました。
- ・広報：親子ひろばのプログラムのお知らせを、保健センターや商店街のお店、子どもクリニックなどに掲示、また、HPや携帯のメールマガジンで発信するなど、新規利用者の確保を図りました。

## ■マクロビオティック料理教室

「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とした「マクロビオティック」料理を学ぶ場を運営しました。若い子連れの参加者も多く、幅広い世代の地域の人たちが集い、講師を中心に共に学びあう場となっています。

日時：基本は第1水曜日 10時～13時 年間11回開催

受講料：1期3回で7500円、1回3000円 参加者延べ75人（去年は12回開催で104人）

## ■寺子屋

小・中学生向けの算数・数学教室に加え、今年は中学生向け英語教室を行いました。

中学生は高校受験を考え、一般的な塾へ変更することが多いようです。

開催日：毎週月曜日 17:00～18:00 小学4～6年生算数 18:30～19:30 中学1～3年生数学  
19:40～20:40 中学1～3年生英語

月謝：1科目につき月4回2,000円

年間 算数…45回開催、参加者延べ人数：228人（昨年299人）

数学…44回開催、参加者延べ人数：164人（昨年224人）

英語…45回開催、参加者延べ人数：151人（去年は途中から開催で72人）

## ■歌声サロン

毎月第1月曜日13時半～15時半に開催しました。好評ではありますが、時々参加が少ない時があります。丁寧なお誘いが必要かもしれません。

参加費：1,000円（地域通貨たま「200たま」まで使用可）

参加者：計12回、77人 平均7人（昨年9人）

### ■その他の企画

遊友ひろばにボランティアとして関わってくださっている方の交流会を開催しました。親子ひろばや健康麻雀など、別の曜日に開催している事業に関わってくださっている方々が、互いに交流し合う良い機会となりました。次年度以降も、このように横のつながりが広がるような会を継続して開催したいと思います。

### ■遊友ひろばを活用したコミュニティビジネス支援の実施

地域のコミュニティ・ビジネスの人材の孵化器として、遊友ひろばを活動場所として貸し出し、主催者に対してアシストを行いました。

#### 【成果】

・オープンから8年がたち、当初必要とされていた活動が他の場所でも開催されるようになった。

#### 【課題】

・現状では、ひろばを継続して運営していくための収入が確保できず、ボランティアによる運営が必要とされている。

## ②メサ・グランデ カフェ事業（担当理事：竹林・田代、スタッフ：佐藤・野仲、アルバイト：相澤・上野・河合・神戸・佐久間・野仲）

4月1日に、中原区新城に「みんなのテーブル メサ・グランデ」を新たな拠点としてオープンしました。「食」をテーマに、地域の課題を見つめなおす機会を提供し、地域の人同士でつながりあうことで、コミュニティが形成されるような環境を作り、また、その中からコミュニティの課題をビジネスの手法を持って解決する起業家を生み出す場が「メサ・グランデ」です。女性や若者の就業支援も目的の一つです。

そんな起業家育成を目指す「メサ・グランデ」での、実際のモデル事業として、ぐらす・かわさき独自のカフェ事業でコミュニティビジネスの実践を行いました。

昨年まで3年間実施してきた「たちばなブランド推進事業」で培った、農家さんや地域食育関連団体等との連携を生かし、地産地消の発信拠点として、地場野菜の仕入れと販売、野菜を活かした料理の提供を行い、野菜摂取の促進や孤食の防止、地域コミュニティの促進、まちの活性化、農業振興などに寄与しつつ、自立的経営を目指して事業を行いました。

具体的には「野菜販売」「ランチ・弁当」「家庭科カフェ」の3本柱で実施しました。野菜販売は、固定客はつきましたが、仕入れが課題（特に端境期品薄）です。

弁当・ランチ販売は、現在は1日20食を製造。顧客獲得のため、下半期からは店内でお召し上がりの場合はプレートに盛り付けるなどランチの形態の改善をしてきました。また効率的な運営のため、仕込みを前日に行うなど準備段階の工夫もしてきました。メニュー開発に今後さらに力を入れ、売り上げの核となっていくようにしていく必要があります。

家庭科カフェは、当初の構想と異なり、利用者はあまりありませんでした。理由は、自炊カフェに対する理解がまだ薄いためと考えられ、広報・説明も難しく、下半期は金曜日・土曜日のみに開催するように変更し、人件費を抑えながら実施しました。

#### 【成果】

- ・ 実店舗を開設することができた。
- ・ 地域の顧客を徐々に獲得してきた。
- ・ 開店準備期間がほとんどない中、メニュー開発などスタッフのスキルが徐々に向上した。

**【課題】**

- ・ 採算性の確保
- ・ 地域コミュニティの場としての機能の充実
- ・ 地元商店街との連携

**(5)以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）**

**①学習会・講座の企画・運営（担当理事：町田・スタッフ：広岡）**

今年度は下記の2回の学習会を開催しました。ぐらすレターで学習会のテーマや企画・運営をするボランティアを募集しましたが、あまりご意見がありませんでした。次年度以降は、呼びかけの仕方や、参加の仕方などを工夫していきます。

■ 「みんなでエンディングノートを書く」-終末医療の実際について学習会：1月28日（月）にあうん介護センターのケアマネージャー中馬三和子さんを招き、終末医療のお話を伺ったのちグループに分かれて経験談などおしゃべりしながらエンディングノートを書く学習会をしました。参加者17名スタッフ5名。気兼ねなく話せたことが好評で、葬式・お墓などのテーマにつき続編要望の声もあります。

■ 川崎市予算学習会：2月23日（土）に予算学習会を開催し、17名の参加がありました。

**②さまざまなグループへの参加と応援**

**■地域通貨「たま」運営委員会への参加（江田・大西・塩沢・田代）**

2012年10月には、5周年を迎えました。これまで同様、ぐらす・かわさきが事務局を担い、地域通貨たま運営委員会を構成し、「たま」の運営を行ってきました。

- ・ たまの主催イベント：地域内循環型マーケット『たま楽市』を秋に1回開催。
- ・ 個人会員：183名（前年度182名）、「たま」が使えるお店などの事業者会員は58店（前年度49店）と緩やかに伸びています。団体会員は18団体で変化なしでした。
- ・ ぐらすでの「たま」利用状況（2012年4月1日～2013年3月31日）  
ぐらす・かわさきではひろばの利用料の一部として「たま」を受け入れ。（ ）内は前年度実績。

**【収入】**

親子ひろば：2,250たま（2,350たま）、健康麻雀：73,700たま（78,900たま）

マクロビ料理教室：0たま（100たま）、遊友ひろば利用：24,400たま（15,550たま）

寄付：17,000たま　　その他（石けん売上・学習会参加費等）：5,900たま

合計：115,350たま（113,050たま）

**【支出】ボランティアお礼等**

親子ひろば：8,450たま、健康麻雀：41,150たま

その他（ぐらすレター発送手伝い等）：34,150たま

合計：83,750たま（131,300たま）

**■川崎NPO法人連絡会への参加**

通常の事業に忙しく、積極的に関わることはできませんでした。今後、連絡会として会員共通の

課題に取り組むことが、必要であると考えられます（江田・田代・広岡が参加）。

- 多摩区観光推進協議会の理事（大西）、NPO 法人セカンドリーグ神奈川の理事（田代）として参加しました。
- 「たまよこネット」の会員として事務局の一部を担当しました（江田）。
- 「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」の協力団体として、活動の支援をしました。
- 神奈川県の新しい公共支援事業モデル事業として行われた「協働の新たなステージへの環境創出事業」の会議体メンバーとして参加し、協働の相談窓口を開催しました（江田）。

### ③商店街活性化のための活動（担当理事：池上、スタッフ：塩沢・大西・田代）

昨年度に引き続き、多摩区の登戸東通り商店会の事務補助などを行いました。また、登戸東通り商店会が「エブリデイ・エコ宣言」を掲げて年に2回開催しているイベント「わくわくナイトバザール」で、リユース食器の洗浄場所や、ステージイベントに出る人たちの着替え場所として、遊友ひろばを開放しました。

また、中原区でも新城南口商店会に加入し、地域の商店等とのコミュニケーションを図ってきました。年度末には川崎市商店街連合会の「商店街活性化フォーラム」で「メサ・グランデ」と「遊友ひろば」の事例発表を行いました。

### ④講師派遣

「かわさき自治推進・ソーシャルビジネスフォーラム」、「KS ソーシャルビジネス・アカデミ」、「かながわコミュニティビジネスカレッジ」、「JICA 研修住民参加型コミュニティ開発」、「セカンドリーグ神奈川設立シンポジウム」、「神奈川コラボレーションフォーラム」、「ソーシャルなワークをつくろう！～市民活動の新しいかたち～」で講師を行いました。

### ⑤行政などに関わる委員会への参加

かわさき市民活動公益活動助成金審査委員会、高津区食育推進会議に委員として参加しました。

### ⑥ぐらすレターの発行（担当理事：江田、スタッフ：江田・大西・塩沢・広岡・田代）

月1回（年間10回、4・5月合併、11・12月合併）発行。事業報告・地域の情報・商店街情報・イベント情報、または会員からの問題提起などの投稿を掲載し、会員や関係者へ情報提供しました。

#### ■ぐらすレターNo. 109 4月号（4月16日発行）

かわさきサポート基金始まります、みんなのキッチン メサ・グランデ開店しました、それからの活動 二ヶ領用水ウォッチングフォーラム、子育て支援センターますがた・おとおと運営スタート、わくわくたま楽市報告、福島の子どもたちの「プチ保養 in 川崎」報告、被災地のがれきをどうして拡散させるの？、ぐらす・かわさきからのお知らせ/Message Board

#### ■ぐらすレターNo. 110 6月号（6月18日発行）

ぐらす・かわさき第12回定期総会報告、メサ・グランデ スタッフ紹介、かわさきサポート基金募集スタート！、市民活動・CB・SB団体～活動紹介 Part 1、リニア新幹線は夢を運ばない、ぐらす・かわさき総会・交流会報告、昭和れとろの会、自然食レシピ紹介、ぐらす・かわさきの学習会、ぐらす・かわさき次期中期 計画検討のためのミーティング、Message Board

■ぐらすレターNo 111 7月号(7月19日発行)

原発立地自治体にふるさと寄付をしよう、新しい理事の紹介、辞任理事からのメッセージ／中期計画策定について、子育て支援センタースタッフ紹介、活動紹介 Part2 高津養護学校おやじの会、「エンデの遺言」上映とワークショップ、自然食レシピ、原発を問う下北のスタディツアーに参加して、Message Board

■ぐらすレターNo 112 8月号(8月23日発行)

かわさきサポート基金 公開選考会、中期計画策定のためのワークショップ報告、高齢者の住まいを考える in ライフリー荏田、ワンデイシェフで夢、叶えます!、福島の子どもたちのサマースクール&プチ保養報告、ぐらす・かわさきからのお知らせ、Message Board

■ぐらすレターNo 113 9月号(9月20日発行)

ぐらす・かわさき これからの10年を語ろう!、かわさきサポート基金選考会報告、たちばな農のあるまちづくり、市民活動団体紹介(ともしび会)、たま楽市出店者募集、たまたま子育てまつり報告、ぐらす・かわさきからのお祝い、Message Board

■ぐらすレターNo 114 10月号(10月18日発行)

ぐらす・かわさき会員、意見交換会報告、かわさきサポート基金学習会報告と寄付集めの動向、市民活動団体紹介(ペットと最後まで)、小出裕章さん講演会 in かわさき、自民党憲法改正草案と育鵬社版教科書、大宴のお知らせ、Message Board

■ぐらすレターNo 115 11月号(11月15日発行)

かわさきサポート基金に寄付をお願いします、たちばな写真ツアー報告・メサ・グランデ報告、川崎自治推進・ソーシャルビジネスフォーラム報告、たま楽市報告、市民活動団体紹介 あいあいネット、たまよこネットエコツアー報告、Message Board

■ぐらすレターNo 116 1月号(1月17日発行)

ぐらす・かわさき 変革の年に、第2回CBセミナー報告「チラシの作り方」、たま・みた・まちもりプロジェクトがスタート、ワンデイシェフ「沖縄料理に島々の歌で味付けを」、介護でGO(その1)、リニア中央新幹線計画の凍結を求める署名お願い、市民団体活動紹介「KAWASAKI アーツ」、Message Board

■ぐらすレターNo 117 2月号(2月21日発行)

終末医療の実際を考える、メサ・グランデワンデイシェフ便り、自分でやろう確定申告学習会報告、「ほおんわかぼうし」のこと、介護でGO(その2)、目からうろこの自然食(その14)、放射性物質で汚染された焼却灰を海面埋立て??、Message Board

■ぐらすレターNo 118 3月号(3月21日発行)

かわさきサポート基金試行事業報告、たちばな農のあるまちづくりフォーラム&さんの市報告、コミュニティ・ビジネスセミナー報告、私のお店の作り方、遊友ひろば交流会、介護でGO!その3、川崎市2013年度予算学習会報告、たま・みた・まちもりプロジェクトNO2、原発ゼロカウントダウン報告、総会のお知らせ、Message Board

【成果】会員や地域の方々にぐらす・かわさきの情報や地域の情報を届けることができました。

【課題】会費収入を上回るコストがかかり、経費を抑えて情報発信する方法への転換が今後の課題として残りました。

**⑦インターネットの活用**（担当理事：泉、スタッフ：広岡）

WEB での広報が非常に大切な社会であることは認識しつつも、事業が多岐に亘ってきたことや、単年度の事業も多いことから、ホームページを根本的に改善するタイミングは次年度以降と判断し、今年度はトップページを見やすくするためのデザインを変更しました。